

5 本時の指導

- (1) 目標 異常気象の危険から命を守るための方法について、ゲストティーチャーのアドバイスを参考にして自分たちの考えを深めることができる。
- (2) 資料・準備 発表用データ、掲示物、電子黒板、PC
- (3) 展開

学習活動及び内容	指導・支援と評価		
	T 1	T 2	T 3
<p>1 本時の学習活動を確認する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">ゲストティーチャーからアドバイスをもらい、異常気象の危険から命を守るための方法について考えを深めよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の見通しをもたせることで、意欲付けを図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の準備を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の準備（ICT機器）を支援する。</li> </ul>
<p>2 異常気象の危険から命を守るための方法について自分たちでまとめたことを発表し合う。</p> <p>(1)グループ毎に、スタディノートや電子黒板を利用して発表する。</p> <p>(2)危険回避の方法について、気づいたこと、新しく分かったことなどについて話し合う。</p> <p>(3)スカイプを活用して、発表の様子を他校にも送信する。 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">グループ</span></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メモをもとに、役割を分担して発表するよう準備する。</li> <li>・発表方法はグループ内で分担しておく。</li> <li>・送信相手に分かりやすく伝えることができるよう助言する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表中のつまづきに対して支援する。</li> <li>・感じたことについて、メモをとっておくよう促す。</li> <li>・話し合いがスムーズに進んでいるか各グループを回り、聞き役になりながら確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラズマディスプレイを活用し、資料を見ながら説明できるように支援する。</li> <li>・通信状況を確認し、音声の調整や話す児童が映るよう調整する。</li> </ul>
<p>3 ゲストティーチャーの防災士の方から、危険を回避するためのアドバイスをもらう。</p> <p>(1)それぞれの危険回避の方法についてのアドバイスを聞く。</p> <p style="text-align: center;"><span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">全体</span></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが調べたことと比較しながら聞き、分からないことは質問するように助言する。</li> </ul>		
<p>4 自分たちの考えを深める。</p> <p>(1)自分たちで考えた異常気象の危険から命を守るための方法について、ゲストティーチャーのアドバイスをもとに自分の考えを深める。</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> <p>○こんな方法もあった。</p> <p>○自分たちで考えた方法は、正しかった。</p> <p>○家族に知らせよう。 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">個人</span></p> <p>(2)次時で、外部に発信するための情報をまとめることを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の考えを予め予想しておくことで、考えを深めるための支援に役立てる。</li> <li>・日常に起こりうる異常気象等に対して、常日頃から防災意識を高めておく重要性について伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えがまとまらない児童には、アドバイスで心に残ったことは何か訪ねる。</li> </ul>	
	<p>評 (E1: 情報活用力)</p> <p>他グループの発表やゲストティーチャーのアドバイスをもとにして、自分の考えを深めることができる。 (ワークシート)</p>		

## 〈つくば紫峰学園つくば市立筑波東中学校学習指導案〉

第8学年 つくばスタイル科学習指導案

指導者 石川 泰隆／桃井洋治／馬場 規子／関 美智子

研究主題	郷土愛をもつ生徒の育成のための地域の人材を活用した授業展開の工夫 —地域に生き、地域を活性化する生徒の育成に向けて—
------	---

### 1 単元名 自然災害から身を守るために

### 2 目標

- ◎ 気象災害について課題研究を行い、様々な災害に対する避難行動や防災、ボランティア活動等について理解を深める。
- 課題追究の過程で、専門家に話を聞く、身近な人から情報を収集する、グループで話し合いをするなどの活動を通して、地域防災や相互補助の必要性に気付くとともに、地域社会の一員としての自覚並びに防災意識を高める。

### 3 指導にあたって

#### (1) 単元観

第8学年では、竜巻等の気象災害について掘り下げる活動を通して、災害への日常の備えや避難行動を考えさせる。さらに、東日本大震災や5月の竜巻発生直後から今日までの、地域における被災者支援や防災の在り方について理解させることで、地域防災やボランティア活動の大切さに気付かせることをねらう。

今年5月に発生した竜巻による被害状況を改めて確認することからはじめ、東日本大震災時における市内及び周辺地域の被害状況についても把握する。また、弘前市北辰中学校の生徒と竜巻にかかわる被害状況や避難行動について情報交換を行う。

次に、竜巻等の気象災害が発生したときに備え、課題研究を通して、日頃の備えや避難行動について具体化していく。ここで、生徒が情報を収集するには限界があるため、気象に関する専門的な知識をもつ方を招いて、気象災害はどのようなメカニズムで発生し、気象災害に遭遇したときの心構えや避難行動等について話を聞く時間を確保する。

第8学年生は東日本大震災のときは小学生であり、生徒の多くがおそらく「守られる」立場であったと思われる。しかし、中学校の中堅学年となった今、地域社会の一員としての自覚も生まれ、地域へ貢献したいと考えている生徒も見られる。このような発達段階にあることを考慮し、もし仮に災害が発生したとしたら、自分には何ができ、何をすべきかといった視点から課題を設定させることは時機にかなっていると考える。

しかし、災害時に一人一人のできることはそれほど多くはない。だからこそ、周りにいる人と力を合わせるが必要になってくる。災害が発生したとき、地域社会を基盤とした学校こそ、人々の拠りどころであり、協力・協働をうむ拠点となり得る。生徒にとって学びの場である学校に、地域の避難所という新しい概念をもたせることで、自分達を含めた学校という組織が災害時にどのような役割を担うべきなのか理解させることも大切である。

課題追究にあたっては、友達との協力が欠かせない。調べ学習に力を合わせて取り組んだ

り情報交換を行ったりするなかで、友達のよさに気づき、互いを認め合う機会ともなろう。気象災害の課題研究を通して、防災や減災の在り方、自分達にできることを考えさせることで、地域社会の一員としての自己の在り方を探究させていきたい。

## (2) 生徒の実態

本校第8学年の生徒は、互いの良さを認め合うことができる素直な子が多く、学校内外の行事において協力して事に当たってきた。また、祖父母と同居する生徒も多いことから、地域社会に対して愛着を感じながら生活している。商工会や青年会議所からの声かけもあり、地域で催されるイベントへも進んで参加し、8月に行われた北条地区の復興祭では、訪れた人の記念写真を貼り付けた「復興うちわ」を販売した。収益金で桜の苗木を購入し、竜巻で倒れた桜の木に代わって、リンリンロードに植樹する予定である。11月に行われた「日本の道百選」を歩く会では、商工会の手伝いをしたり、自分たちで店を出して販売を行ったりした。さまざまな体験を経て、地域の方々に支えられ、見守られて、今の自分たちがあるという自覚を深めている様子が見える。

生徒は東日本大震災と竜巻の記憶も新しいことから、防災や減災に対する興味関心が高まっており、学校で行う避難訓練だけでなく、地域と連携した防災計画が必要であると考えている生徒も見られる。また、5月の竜巻の際には、北条地区が受けた被害を深刻に受け止め、生徒会が主体となって学用品を集めるなどの活動を行った。実施には至らなかったが、ボランティアを募り、避難所の手伝いや清掃活動をしようという動きも見られた。

## (3) 研究主題に迫るための手だて

第8学年生は中学校の中堅学年であり、地域が災害に見舞われたとき、自分たちに何ができるかを考えて行動できる生徒を育成することが我々教師の務めであると考えている。それは、本校の研究テーマである「地域に生き、地域を活性化する生徒の育成」にもつながっている。

今回の防災教育では、気象災害をメインに取り上げる。これは、5月に発生した北条地区の竜巻被害を受けてのことである。直後からたくさんのボランティアの支援を受けたこともあり、8月の復興祭を経て商店街に活気は戻ってきたものの、商店の看板や塀などには傷跡が残り、家屋によってはブルーシートをかぶったままのものも見かけられる。竜巻から半年が経ち、生徒は落ち着いた生活を送っているが、災害の記憶を風化させず、教訓として残していく必要性を感じる。

また、気象災害と一口に言っても竜巻や雷、局地的大雨などさまざまなものがあり、東日本大震災の余震と思われる地震も続いていることから、災害への備えを怠らないことが大切である。釜石市の中学生を例にとるまでもなく、将来地域を担う人材として、第8学年生の防災意識を高めておくことが、地域の減災・防災につながると考える。

以上のような理由から、気象災害を切り口に、課題研究を通して、多角的な視点から災害への備えや防災について理解を深めさせていく。その際、自分の身を守ることはもちろん重要であるが、我が身の安全を確保した後に、家族や地域社会の一員としてどのような役割を果たすべきかを一段階上の到達目標として設定している。中学生なりに地域社会に対してできることを考えさせることで、地域の防災や減災対策に目を向けさせ、ボランティア活動等についても理解させていく。

4 指導と評価の計画 (11 時間扱い)

I N	<p>気象災害について理解しよう(1h)</p> <p>気象災害の発生に備え、自分にできることを考えよう(1h)</p>	<p>育てる力・評価規準</p> <p>A1:客観的思考力 ○気象災害という言葉キーワードに、身近に起きる災害について考える。</p> <p>A2:問題発見力 ○気象災害への備えにはどのようなものがあるか考える。</p>									
A B O U T	<p>テーマにもとづき、自己の課題を追究しよう(6h)</p> <p>※ ○内は予想されるテーマ例</p> <p>竜巻発生のメカニズムを探ろう      未来に残そう 災害の記憶      学校が指定避難所になったら…</p> <p>○今年5月に発生した竜巻による被害状況、東日本大震災の被害状況について確認する。 ○気象災害にかかわる適切な避難行動や日常の備えについて考えるために、課題を設定する(1h)</p> <table border="1" data-bbox="263 1019 1085 1547"> <tr> <td data-bbox="263 1019 534 1198">○竜巻等の異常気象について知り、竜巻の発生のメカニズムを調べる(2h)</td> <td data-bbox="534 1019 805 1198">○竜巻等の異常気象について知り、台風や突風、雷、局地的大雨などの発生メカニズム、被害状況、避難行動などを調べる(2~3h・本時)</td> <td data-bbox="805 1019 1085 1198">○災害発生時の学校の役割について調べる(1h) ○地域と連携した防災訓練の仕事分担と準備をする(1h)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="263 1198 534 1377">○気象の専門家から話を聞く(1h・本時)</td> <td data-bbox="534 1198 805 1377">○弘前市北辰中学校の生徒と情報交換をする(1h・本時)</td> <td data-bbox="805 1198 1085 1377">○防災訓練を振り返り、課題と対策について話し合う(1h・本時)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="263 1377 534 1547">○異常気象の発生に備え、身を守る方法についてまとめる(2h)</td> <td data-bbox="534 1377 805 1547">○調べたこと、情報交換したことをもとに、スタディノートを用いてまとめる(2h)</td> <td data-bbox="805 1377 1085 1547">○災害発生時に、学校が避難所となったとき、或いは地域のために自分たちができることを考え、まとめる(2h)</td> </tr> </table>	○竜巻等の異常気象について知り、竜巻の発生のメカニズムを調べる(2h)	○竜巻等の異常気象について知り、台風や突風、雷、局地的大雨などの発生メカニズム、被害状況、避難行動などを調べる(2~3h・本時)	○災害発生時の学校の役割について調べる(1h) ○地域と連携した防災訓練の仕事分担と準備をする(1h)	○気象の専門家から話を聞く(1h・本時)	○弘前市北辰中学校の生徒と情報交換をする(1h・本時)	○防災訓練を振り返り、課題と対策について話し合う(1h・本時)	○異常気象の発生に備え、身を守る方法についてまとめる(2h)	○調べたこと、情報交換したことをもとに、スタディノートを用いてまとめる(2h)	○災害発生時に、学校が避難所となったとき、或いは地域のために自分たちができることを考え、まとめる(2h)	<p>A2:問題発見力 ○気象災害について掘り下げるため、自己の課題を設定する。</p> <p>B1:自己認識力 ○災害が発生したときに、自分にできることを具体化する。</p> <p>D1:言語力 ○課題研究を進める過程で気付いたことや考えたことを適切に相手に伝える。</p> <p>☆以下は、本時にかかわるスキル 竜巻のメカニズム→D2:協働力 ○専門家から知見を得て、竜巻が発生したときの適切な避難行動について考える。 未来に残そう1→E2:ICT活用力 ○情報発信を視野に、ICT機器を活用し適切にまとめる。 未来に残そう2→E1:情報活用力 ○ネットワークを活用し、情報交換を行う。 指定避難所→A2:問題発見力 ○防災訓練の振り返りを通して課題を挙げ、対応策を考える。</p>
○竜巻等の異常気象について知り、竜巻の発生のメカニズムを調べる(2h)	○竜巻等の異常気象について知り、台風や突風、雷、局地的大雨などの発生メカニズム、被害状況、避難行動などを調べる(2~3h・本時)	○災害発生時の学校の役割について調べる(1h) ○地域と連携した防災訓練の仕事分担と準備をする(1h)									
○気象の専門家から話を聞く(1h・本時)	○弘前市北辰中学校の生徒と情報交換をする(1h・本時)	○防災訓練を振り返り、課題と対策について話し合う(1h・本時)									
○異常気象の発生に備え、身を守る方法についてまとめる(2h)	○調べたこと、情報交換したことをもとに、スタディノートを用いてまとめる(2h)	○災害発生時に、学校が避難所となったとき、或いは地域のために自分たちができることを考え、まとめる(2h)									
F O R	<p>地域社会に情報を発信しよう(2h)</p> <p>学習の振り返りと新たな課題設定(1h)</p>	<p>E2:ICT活用力 ○まとめたことをテレビ会議やネットワークを使って発信する。</p> <p>F1:地域や国際社会への市民性 ○地域へ発信するとともに、地域防災の在り方を考える。</p> <p>F2:キャリア設計力 ○これまでの活動を振り返り、自己の新たな課題を見いだす。</p>									